

●取材協力●
南相馬市生活復興
ボランティアセンター
〈本部〉〒979-2334
南相馬市鹿島区西町2丁目117
鹿島区福祉サービスセンター内
TEL(0244)46-5354
〈支部〉〒975-0011
南相馬市原町区小川町322-1
原町区福祉サービスセンター内
TEL(0244)24-1877



誰でも参加できる仮設住宅のお茶会

～新しいコミュニティに広がる笑顔～



南相馬市小池第二応急仮設住宅の仮設集会所で開催されたお茶会のひととき。入居者が一堂に会し、座ったままでもできる体操を行ったり、民謡を歌うなど交流を図っています。仮設住宅のなかに新しいコミュニティが形成されています。



「よりよいお茶会にするため、日々勉強しながら今後につなげていきたいと思えます」と南相馬市社協事務局次長兼主任生活支援相談員の黒木洋子さん。



お茶会は、参加者やスタッフが触れ合う楽しい時間です。

全国からボランティアが駆けつけてくださっています。絵手紙、ペットのマナー、子どものための読み聞かせなど、それぞれの分野に詳しい方々の協力により、多種多様な内容を提供することができています」と南相馬市社協事務局次長兼主任生活支援相談員の黒木洋子さん。そのような活動をおして、居住者同士の交流が生まれ、気の合う仲間を増やす機会になっていっています。「参加者のなかには今後に対しての不安や悩みをかかえている方もいらっしゃいます。私たちは交流の場を提

新しい出会いが待つお茶会。誘い合って参加してほしい

供するだけでなく、医療分野のボランティアの方と一緒に皆さんの気持ちに寄り添い、内面的なケアも行っていければと考えています」と黒木さんは仮設住宅で暮らす皆さんを温かく見守っています。

鹿島区の小池第二応急仮設住宅には、福島第一原発から20km圏内の小高区に在住していた方や、津波の被害に遭われた方などが入居しています。ここでは、毎週木曜の午前10時からお茶会が開かれています。この日は、社協職員やボランティアらが一軒一軒まわって配布した告知チラシを見た入居者9名が集まりました。参加者の渡辺典子さんと古内和子さんは、仮設住宅がお隣同士ということもありすぐに打ち解け、今ではお互いの住宅を歩き来る間柄になりました。そんなお二人にお茶会の感想を尋ねると、「私たちは毎日のよう



「やっぱり住み慣れた土地が一番だけど、このような場で知り合いが増えることは嬉しいですね」と笑顔の参加者の渡辺典子さんと古内和子さん。

あの震災から約半年。各地の避難所が徐々に閉鎖され、仮設住宅への入居が進んでいます。その際、被災者に生じる心配「このひとつに、「隣近所とうまくやっていけるか」「友達はどこか」といった「仮設住宅での「コミュニティ」に関する不安があります。そんな不安を解消するため、南相馬市では仮設住宅の入居者同士が交流を図る「お茶会」が開催されており、人々の新しいつながりが生まれています。

孤立や引きこもりを防ぐ 交流事業で仲間づくり

南相馬市は、全国から集まったボランティアの協力のもと、復興への道を歩んできました。現在は日常に戻るための「生活復興期」として、仮設住宅入居者などへの支援に重点が置かれています。そのひとつとして、南相馬市生活復興ボランティアセンターでは、仮設住宅における新たなコミュニティの構築を目指し、入居者を招いての「お茶会」を実施しています。

「仮設住宅にはさまざまな地域の人々が集まってきましたので、それまで親しかった近所の方と離ればなれになることもあり。周りの人が知らない人ばかりで、どうコミュニケーションをとったらいいかわからないという声も実際にありました。そこで誰もが参加できる憩いの場を設け、特に高齢者の孤立や引きこもりを防ぐと、6月からお茶会を始



お茶会は南相馬市社協職員のほか、県内外の保健師、心のケアチームなどとの連携により運営されています。「今後は他の生活支援相談員の方とも協力して取り組んでいきたいです」と南相馬市社協生活支援相談員の高野美紀さん（左から2番目）。

に顔を合わせているけれど、ここに来ると新しい出会いがあり、多くの方々と交流があります。不安だった仮設住宅での暮らしも、このような取り組みのおかげで楽しくなりました。方々は多いはず」と笑顔を見せました。スタッフのひとり、南相馬市協生活支援相談員の高野美紀さんは、お茶会の運営をおして入居者同士のつながりを深めることはもちろん、自分自身も入居者に親身に関わることで絆を築いてきました。今後の展望について聞いてみると、「参加者のなかには、毎日参加してくださる方もいます。その多くは高齢の女性ですが、たまに若い女性が小さいお子さんを連れてくると和んだ雰囲気になり、いつもより明るいお茶会になります。残念なのは、男性の方が少ないこと。最初は参加しづらいかもかもしれませんが、まずは来ていた

今後のカギは「自己」。居住者運営のお茶会へ

8月、仮設住宅入居者の生活再建や一人暮らしの高齢者の見守りなどを行う生活支援相談員が配置されました。長期化すると考えられる仮設住宅での避難生活のなかで、そこに住む方々のコミュニティによる支え合いがますます重要になっていきます。さらに今後は、入居者自らの力でコミュニティを運営し、自立していくことが求められます。「お茶会に関しては、入居者のなかから民生委員や自治会メンバー、町内会長を務めていた方などキーパーソンとなる方々の参加を促し、その方々を中心とした入居者主体の運営にすることで自立支援につなげていきたいと思っています」と黒木さん。お茶会から始まった交流づくりは、人々の笑顔だけでなく、自立を後押しするきっかけとしても機能していきます。



「お茶会は隣近所の方との顔合わせの機会と考えて、気軽に参加してほしい」と話す南相馬市社協鹿島区福祉サービスセンターの地域支援係長・佐藤清彦さん。

めました。お隣やご近所の顔が見える環境が生まれ、仲間づくりのきっかけになればと思っています」と南相馬市社協鹿島区福祉サービスセンターの地域支援係長・佐藤清彦さんは話します。お茶会は、南相馬市社協の職員とボランティアの協働のもと、鹿島区の各地区に設置された仮設集会所や近隣のコミュニティセンターを会場に毎日開催され、10人から30人が参加しています。お菓子を食べながらの談笑、血圧測定と健康チェックのほか、簡単にできる健康体操、大人から子どもまで楽しめるゲームなど、趣向を凝らした内容で約2時間行われます。「ぜひお茶会をお手伝いしたいと、